

県畜産振興実施計画の概要（その4）

推進体制の確立

推進体系の確立

この計画の全面的な推進によって、本県の畜産はさらに大きく発展することが期待される。しかしそれには科学性をもった高度な技術の普及指導体制の確立が図られなければならない。

このためその中心となる畜産行政機関について、畜産一般の技術指導、生産衛生、試験研究等各部門にわたる機関の機構や施設の整備を促進する。さらにこれら関係機関に勤務する職員および民間獣医畜産関係技術者に対する技術の再訓練を行なうとともに、計画を効果的に進めるための諸調査等を重点的に実施することとしている。

行政機関の整備

（1）教育機関の充実

農業の近代化に応じた家畜の生産技術畜産経営の指導者や経営者の養成が急がれるのでまず教育機関の整備拡充をはかる。

◇酪農大学

乳牛飼養農家の子弟を対象に、近代的酪農業に即応する経営技術を習得させる。また乳牛飼養管理、自給飼料生産、牛乳処理など酪農全般にわたし地域の特性を生かした試験研究を行なう。

◇岡山県畜産講習所

酪農および養豚の経営合理化と、省力管理技術を浸透させる優秀な畜産技術指導者養成が急がれるので、津山市の現在の中国酪農講習所を岡山県畜産講習所として内容をさらに充実する。

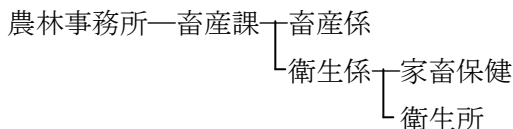
◇畜産技術研修所

省力化による生産技術体制の樹立とともにこれを推進する技術者を確保するため、畜産関係の行政機関および団体職員民間獣医事業従事者に対して技術研修会を計画的に開催する等、強力に再訓練を実施する。一方農家における実際の畜産従事者、とくに青年婦人層を対象に、実地研修による畜産知識や技術の修得を一層促進する。

（2）行政機関

◇農林事務所

多頭羽飼育による畜産主産地の形成される今後の畜産情勢に対応する一般畜産行政指導の徹底を図るため、農林事務所の組織を改組充実し、畜産行政事務の一部権限の移譲、定員の充足を図る。将来構想はつぎのとおりである。



◇家畜保健衛生所

現在本所 24 ヲ所、支所 4 ヲ所、計 28 ヲ所あるが、この実施計画による家畜の倍増に対して家畜防疫、生産衛生指導を一段と強化するため、昭和 40 年度を目標に現在の診療、人工授精の業務の民間移譲をはかるほか、畜産主産地形成を考慮して管轄区域ならびに人員の再編成、機動力の強化を行なう。また衛生所は精液銀行のサブセンターとして精液の保存供給を行なう。

◇精液銀行

計画的な家畜増殖をはかるため精液銀行、メインセンターサブセンターをも設置する。

◇県営食肉市場

食肉の消費増大とともに今後市場での枝肉取扱いは飛躍的に増大することが予測されるので施設、環境を整備する。

（3）試験研究機関

畜産の飛躍的な発展のためには、その基盤として試験研究にもとづいた、科学的な高度の多頭羽飼育の生産技術体系が確立されなければならない。このため各畜産試験場においては、農家経営の実態に即した各種の実用化のための試験研究調査を行ない、自立経営農家造成の基盤となる、省力管理技術の確立に重点をおく。

なお肉用牛においては主産地形成地域の中心に「肉用牛生産経営指導所」「肉用牛肥育経営指導所」の設置を考え、また将来必要となる種雄牛の効率的な利用をはかるため種雄牛育成所を設置する。養鶏試験場においては、県北に種雄鶏育成所を設置し、

岡山畜産便り 1963.11

種鶏改良の機能を充実する。

畜産試験場における主な試験研究事項はつぎのとおりである。

◇酪農試験場

〔乳用牛〕 飼養標準利用、子牛の育成、繁殖障害牛の経済利用、育成の経済性、多頭飼育に伴う施設および機械化、類型別経営実態調査、栄養研究、繁殖衛生研究（能力の早期判定、多頭飼育の環境衛生ほか）

〔種雄牛〕 遺伝能力の早期判定、精液の有効利用、＜養豚＞ランドレースおよび中ヨークシャーの改良繁殖、豚の人工授精と衛生対策、豚産肉能力検定。

〔飼料作物〕 機械化栽培、放牧地の造成および管理利用、人工育草

◇和牛試験場

凍結精液、液体精液、繁殖生理、種雄牛の後代検定、肉用牛の育種の繁殖図の設定、肥育牛の生産向上、省力管理、肥育形態、飼養施設改善、糞尿処理利用、食肉の貯蔵、自給飼料の省力機械化栽培、飼料作物の育種、牧野造成、放牧方式確立、飼養標準設定、子牛の育成、低受胎牛、子牛生産経営、育成の経済性、企業的肥育経営、飼料作輪作体系の確立

◇養鶏試験場

食卵生産の経済調査、地域別類型別養鶏経営の実態調査、鶏の品質改善、鶏肉処理および卵質維持、ケージの経済的飼養方式、鶏の環境生理、省力管理、鶏の飼養標準および給与基準、新飼料資源の飼料化促進、肉用鶏の交配方式、鶏の人工授精、衛生関係試験調査（ロイコチトゾーン病、白血病）

◇家畜衛生試験場

飼養羽数の増加にともない、多発することが予想される家畜疾病に対し、速やかに適確な対策を講ずるため、総合的な診断施設として設置をはかる。

〔試験研究項目〕 病性鑑定。栄養および環境、伝染性病、寄生虫病、微量要素等の家畜におよぼす影響ならびに予防、家畜伝染病統計調査。

調査および広報

調査は畜産施策の実施と表裏の関係にある重要なものであり、調査資料の乏しい現況から、重点的に必要に応じてつぎの事項について実施し、速やかに整備をはかることにしている。畜産基礎統計、農家

経営、畜産物生産費、流通消費、家畜の能力、試験研究、事業効果、その他資金、施設、衛生等。つぎの畜産行政施策および指導方向を速やかにかつ正確に末端に周知させるための畜産広報はより重要性を増してきているので、各種媒体を通じて広報活動をさらに強化し洗練されたものとする。とくに畜産行政の方向、生産奨励、新技術の普及、市況動向に重点をおいて実施する。

畜産関係団体

農家に直接つながる畜産関係団体の活動は、畜産の発展に大きな役割をはたしているが、さらに、この実施計画を協力に進めるためには、県と表裏一体となって各種の事業が実施されなければならない。そのためとくに県総合畜連、酪連は早急に合併が図られ、強力な事業団体としての組織機構を確立し、生産指導あるいは経済部門の事業執行体制の強化をすすめる。

おことわり

以上4回にわたり県畜産振興実施計画の主要点を抜き出して紹介した次第であります。この計画は本年7月に県畜産課においてとりあえず岡山県の畜産の将来目標のアウトラインをとりまとめられたもので、未定稿として公表されたものをそのままあげました点をおことわりしておきます。